

がまんする力

「2018. 5 私幼時報 視点 がまんする力

京都大学大学院教育学研究科准教授 森口佑介」より抜粋

子どもにどういう力を育てたらいいのかに、がまんする力を育てることが大事。
ここでのがまんという言葉は、後でいいことがある場合に、今したいことをしないことを意味する。

例えば、お腹を空かせているお子さんが、目の前にあるお菓子を今すぐ食べたいと思う。でも、少し待てば、お子さんが好きなハンバーグが夕食で出てくるとする。今、お菓子を食べてしまうとお腹がいっぱいになって、ハンバーグが食べられない。このような状況で、ハンバーグを食べるために、お菓子を食べたい気持ちを抑えることが、がまんする力。

大事なことは、ここでの「がまん」とは、お子さんが目的をもって自ら進んでがまんする能力。ハンバーグを得るという目的のためのがまん。親や教師の都合で強いられる「我慢」ではない。

このがまんする力は、幼児期に大きく成長する。

そして、重要なことは、このがまんする力が高い子どもは、小学校や中学校で学力が高かったり、友人関係に恵まれたり、大人になったときに健康であったり、経済的に恵まれたりすることが明らかになっている。

一方で、がまんする力が幼児期に十分育たないと、大人になったときに糖尿病になりやすく、経済的に恵まれないものである。

がまんする力は、比較的子育てや家庭環境によって育みやすいことがわかってきた。

重要なことは、子どもが自分でものごとを解決できるように親が導くこと。

例えば、お子さんがパズルに挑戦している。そのパズルはお子さんには少し難しく、お子さんは苦勞している。このような状況に接した親は、2つのタイプに分かれる。

1つは、親がすぐ正解を教えるタイプ。

もう1つは、お子さんが自分でパズルができるように、少しだけヒントを出すタイプ。お子さんが今持っているピースに書かれている絵の特徴について言及し、お子さん自身に考えさせる。

最近の研究で、少しだけヒントを出すタイプの親のほうが、お子さんのがまんする力を伸ばすことができると示されている。

子どものがまんする力を伸ばすには、親にもがまんが必要。

がまんする力は、自立につながり、自立することで、がまんする力が育つのではないかなと思います。子どもと接していて、忙しい、時間がない、うっとうしいと感じる時など「がまんする力」を思い出し、「落ち着いて、ゆとりをもって」と、自分自身に言い聞かせたいです。「**がまん**」